

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

教職員働き方改革推進事業（採点支援システム導入）

事業の経過・背景・課題

本市では国のGIGAスクール構想に伴い、ICTを活用した授業の質的向上を図るとともに、教職員の業務効率化を図るため、ICT環境の整備を進めているが、教職員の業務の一つであるテストの採点・集計業務は、正確な処理が求められることから、時間と手間がかかり長時間労働の要因となっている。

取組内容

交付実績額： 165 千円

特に生徒数の多い3中学校（峰山・大宮・網野）において、紙媒体のテストをスキャナで読み取り、パソコン上で採点するソフトウェア（採点支援システム）を導入し、中間・期末テスト等の採点業務を効率化。教職員の業務の効率化を図るとともに、生徒に対する生活指導や日常的な相談などの時間を十分に確保することで総合的な指導を行う。



事業の成果・今後の展望等

採点支援システムを導入した3校において、時間外実績を令和4年度と比較したところ、特に本システムを活用した中間・期末テストの実施期間である6月、10月、11月において、教職員の時間外勤務が減少した。

採点時間が削減されることで教職員が自らの授業を磨くことができるだけでなく、生徒と向き合う時間が確保され、個別最適な指導を行うことに繋がり、より良い教育環境の実現が可能となった。

（時間外減少率）6月：14.72% 10月：6.07% 11月：4.68%

時間外の減少という成果だけでなく、効率的に採点業務を行うことができる本システムの活用は教職員の心理的負担の軽減や生徒指導など子どもたちと向き合う時間の確保にも繋がっているため、導入した3校については、翌年度以降も引き続き活用することとし、教職員の働きがいの向上や子ども主体の学びの実現を推進する。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

京丹後市教育支援センター管理運営事業

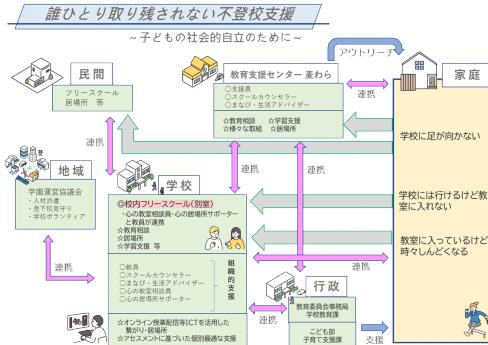
事業の経過・背景・課題

不登校児童生徒数が増加する中、京丹後市では教育支援センターを設置し、支援員6名体制にて不登校やその傾向にある児童生徒の社会的自立に係る教育相談、学習支援、体験活動などの様々な取組を実践している。一方で、「センターに通所希望をしない」児童生徒やその保護者については支援を届けられていない現状がある。

取組内容

交付実績額： 1,041 千円

令和6年度においても支援員を6名体制とし、小中学校の別室等に登校している児童生徒への支援を教育支援センターの支援員がその一部を担うことや、各小中学校の教育相談部会等に参加することにより市内の不登校の状況を把握とともに、家庭に引きこもりがちな児童生徒の家庭訪問を行うなど、学校と協力しながら重層的な支援を進めた。



事業の成果・今後の展望等

- 市内の不登校児童生徒の出現率は令和5年度と比較して、小中学校とも減少を示し、各学年別の継続および新規不登校児童生徒の出現率について、小学校は4名減の22名（出現率0.96%）、中学校は17名減の58名（出現率5.09%）となった。
- 不登校の児童生徒のうち、学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒については、小学校22名中0名、中学校58名中9名（11%）と全国の平均値の38%を大きく下回った。
- 小学校は中学校と比べて不登校の減少率が小さく、低学年から不登校が出現する状況が変わらないことから、早期に教育支援センターとつながりを持つことで、不安を解消させるとともに自信や意欲の改善を狙いたい。
- 不登校の改善のみを目指すのではなく、児童生徒が安心して通うことができる場所として教育支援センターの支援の質の向上とともに、個々の児童生徒に合わせた多様な選択肢を提供できるようにすることが重要である。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

小学生English Camp事業

事業の経過・背景・課題

学習指導要領の実施により英語教育の推進が加速する中、学校で学んだことをアウトプットする機会・経験が少ないといった現状がある。

国際感覚とグローバルな視野を持つ人材の育成を図るため、異文化理解や国際交流に興味関心のある児童生徒を対象に、CIRやALT等による1泊2日の英語を活用した体験プログラムを実施する。

取組内容

交付実績額： 75 千円

市立小学5・6年生16名を対象に、CIR（国際交流員）やALT（外国語指導助手）等による1泊2日の国際交流プログラムを実施。また、事業の一環として、CIR（国際交流員）やALT（外国語指導助手）と一緒に母国に関する会話（食べ物や歴史など）や英単語ゲーム（イラストを見て英単語を当てるゲーム）、英語の絵本の読み聞かせ等を通して異国の文化に触れる機会を提供した。



事業の成果・今後の展望等

- ・言語の違いや異文化に触れ、外国に対する興味関心を高めるとともに国際感覚を養うことができた。
- ・英語漬けの一日を過ごすことで、活動を通じ様々な表現に触れ、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができた。
- ・将来、英語や国際的な仕事に興味をもつ高校生がボランティアとして参加した。児童サポートをとおして、キャリア教育につながる機会となった。
- ・国際感覚とグローバルな視野をもつ児童の育成を図るため、より充実した内容のプログラムを提供する必要がある。高校生との英語でのふれあいは、参加児童にとって目標の姿になった。
- ・今後は、さらに多くの児童や地域在住の外国にルーツのある方にも参加いただき、児童の国際感覚の醸成につなげていきたい。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

遠隔教育事業

事業の経過・背景・課題

本市では、「丹後学」の実施により、探究的な学びを通して郷土への愛着と誇り、地域固有の価値について考えさせる学習を行っており、これまでの成果を基盤に今後はICTの利活用なども進めていきたいと考えている。

高度な専門性を有した専門人材に遠隔地から授業を実施していただくことにより、より専門的な学びを深めることを目的としている。

取組内容

交付実績額： 158 千円

弥栄中学校において、高度な専門性を有した専門人材に遠隔地から授業を実施することにより、より専門的な学びを深める。

対象校： 京丹後市立弥栄中学校

内容：第3学年 技術科 年度内計18時間

「計測・制御に関するプログラミングによる問題解決」他



事業の成果・今後の展望等

・高度な専門性を有した専門人材からの授業を受けることにより、生徒の学びを深めさせることにつながった。遠隔授業を受ける前は不安があった生徒も、授業を通して不安が軽減され、興味や関心をもって好ましい態度で授業に臨めた。

・今後は他校にも取組を波及させることで、高度な専門性を有した専門人材による授業により、生徒の専門的な学びを深めることとしたい。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課 (0772-69-0620)

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

泳力向上事業

事業の経過・背景・課題

本市では16校の小学校全てにプールが設置されており、全学年において水泳指導が授業カリキュラムに組み込まれている。近年、屋外プールでの授業実施は、天候や気温に左右されやすく、児童の水泳指導時間を十分に確保することができない状況があるため、新たな形での授業実施を検討する必要がある。

取組内容

交付実績額： 270 千円

モデル的に市内小学校のうち1校の水泳指導を屋内プール施設を保有している民間のスポーツ施設へ委託し、確実な水泳指導時間の確保と、プロのインストラクターによる指導によって児童の泳力向上を図った。

※実施回数は各学年3回で、低学年・高学年に分かれ3学年ずつ実施



事業の成果・今後の展望等

- ・屋内プールでの水泳指導であったことから天候等に左右されることなく計画通りに水泳指導が実施できたことに加えて、複数のインストラクターからポイントを押された指導を受けられたことによって、泳力が向上した児童が多く見受けられた。
- ・1日30分以上要していた水泳指導に係るカリキュラムの構築、指導の準備、施設の清掃、水質管理等に要する時間が不要となったことで教職員の負担軽減につながり、子どもたちに関しても、プール掃除（計3時間程度）が不要となったことで、掃除する時間を他の授業に充てることができた。
- ・今年度、3学年1グループでの指導は人数が多くて指示が伝わり難かったため、今後は、1グループ2学年にするなど人数の見直しが必要である。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

中学生海外派遣事業

事業の経過・背景・課題

平成28年度より市立中学校に通う中学2年生を対象に、8泊9日間の行程でニュージーランドへ派遣しホームステイ体験や現地学校に通う事業を実施してきた。しかし、例年交流のあった現地校から令和6年度以降は受入が困難との申出があり、派遣先及びプログラム内容を改良し実施するもの。「問題解決能力」「協働性」「英語運用能力」を身につけ、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成を図ることを目的としている。

取組内容

交付実績額： 5,939 千円

オーストラリアのパースに市内在住の中学2年生20名を派遣し、ホームステイ及び現地校への通学体験を行い、市街研修では大学生を含むグループ行動を実施した。

事前研修の段階から、課題解決型の学習を実施し、「後世に残したい京丹後市の良さとは？」について探究活動を進め、課題に対して派遣先で聞き取り調査を実施した。



事業の成果・今後の展望等

- ・事前研修の段階から課題解決型の学習を実施し、その後、「後世に残したい京丹後市の良さとは？」をテーマに各自で探究活動を進め、課題に対して派遣先で聞き取り調査を行い、整理・分析し自分なりの解を出す活動をとおして、問題解決能力及び協働性を養うことができた。
- ・現地の学校やホームステイ先において、英語でコミュニケーションを図ることで、英語運用能力の向上を図ることができた。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課 (0772-69-0620)

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

探究学習充実事業（探究コーディネーター設置）

事業の経過・背景・課題

本市では就学前から中学校までの10年間を見通した「保幼小中一貫教育」を基礎に、地域素材（人、環境、文化、産業）を扱った探究的な学習「丹後学」など、特色ある教育活動を推進している。実践的な学びを行うための学校と地域・企業をつなぐ手段（人材バンク）がなく、教員個人のネットワークに依存している。また、中学校までの課題解決・探究的な学習の体系的な学び方が、高等学校へは連続しておらず、中学校までの学び方が十分に活かされていない。

取組内容

交付実績額： 1,344 千円

探究コーディネーターの配置

○丹後学・探究学習の推進

- ・学校の探究的な学びを実現するためのアドバイザー
- ・カリキュラム改訂、Kyotango Sea Laboの運営協力

○人材バンクの構築

- ・地域素材の開拓

○中高連携

- ・Roots、府立高校（地域おこし協力隊）との連携

京丹後市保幼小中一貫教育
モデルカリキュラム

丹後学

【令和7年度改訂版】

「探究的な学び」の実現・充実による
グローバル人材の育成
↓
● 問題解決能力
● 多様な他者と協働する力
● コミュニケーションについての表現運用能力

令和7年3月
京丹後市教育委員会

事業の成果・今後の展望等

- ・主体的に学びを深め、対話的な学びを実現するために、地域人材や学校支援ボランティアの活用を通して学
校園所・地域・企業が連携し、子どもが学びを深める機会を提供することを目的に、人材バンクの構築までには
至らなかつたが、基礎を構築することができた。
- ・各段階で育成を目指す資質・能力を連続的に相互につないでいくことで、子どもたちに必要な資質・能力を育
むための丹後学モデルカリキュラムの改訂を行うことができた。
- ・今後は、「探究的な学び」の推進と各学校園所が目指す子ども像の実現に向けて、必要な人材や企業にア
クセスできるように人材バンクの構築と活用を行う。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

英語力向上アプリ導入事業

事業の経過・背景・課題

将来グローバル社会で活躍できる人材を育成することを目的に、発音とスピーキング能力を中心とした英語力の向上を図るため、令和4年度より市立中学2年生を対象に英語力向上アプリ「ELSA Speak」を各生徒が使用するタブレットに導入。令和5年度から、対象に市立中学1・3年生を追加し、令和6年度においても当該アプリを活用し学校と各家庭において英語力の向上を図る。

取組内容

交付実績額： 1,900 千円

- ・学校及び家庭学習でのアプリ活用による発音やスピーキング能力を中心とした学習
- ・教員対象の専門員等による効果的なアプリ活用のための講座・意見交換会の開催
- ・生成AIによる会話練習機能の積極的な活用
- ・アプリを活用したReading Contest、Holiday Challenge開催

〔ELSA Speak〕

- ・GoogleのA I投資部門のサポートを受けて開発された独自A I音声認識技術を有する、英語の発音とスピーキングに特化したアプリ
- ・教育現場でのスピーキング指導の必要性に対応しており、A Iが作成する個別カリキュラムで短期間にスピーキング力を向上させることができる。
- ・世界100カ国以上、5,400万人に利用されており、英検、IELTS、TOEFL受験者のスピーキング対策や、TOEIC受験者のリスニング対策で高い評価を得ている。
- ・京都大学、ライス大学（アメリカ）、南洋理工大学（シンガポール）、同志社中学校など世界中の教育機関での導入が進んでいる



事業の成果・今後の展望等

- ・生徒の英語力の向上（全国学力学習状況調査において全国平均より高い結果が得られた）
- ・英語学習への意欲向上（発音を向上させ、英語の「話す」「聞く」に自信をつけさせることができた）
- ・教員が生徒の学習状況を把握し、苦手分野の指導など授業での効果を高めることができた。
- ・様々な仕掛けを行うことで、生徒の学びを継続させるとともに、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。
- ・データをより活用することで、効果的な授業づくりを行う。
- ・アプリの対象者を拡大し、早い段階から発音の向上を図る。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

STEAM教育推進事業

事業の経過・背景・課題

中学生においては、学びへの意欲をさらに高め、キャリアに対する目的意識を明確にすることが求められるとともに、STEAM（科学・技術・工学・数学）分野への興味や関心を育むことも重要になっている。

国際感覚を持ち将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、総合的な学習の時間を活用した丹後学に文系・理系の枠を超えた学びであるSTEAM教育とデザイン思考を掛け合わせ、答えのない問い合わせに英語で取り組む融合プログラムの開発をすすめている。

取組内容

交付実績額： 2,598 千円

スタンフォード大学とトロント大学の現役研究者が率いる一般社団法人スカイラボと連携し、中学3年生30名と高校生4名（計34名）を対象に、中高生をサポートする大学生・大学院生9名と地元企業関係者9名にも参加いただき、「丹後学（地域探究学習）×デザイン思考×STEAM教育」の英語を介した5日間プログラムを実施。

「京丹後市の良さを学び、コミュニティの課題を考え、人間中心の発想でSTEAMの知識を役立てるグローバル人材としての視点を身に付け、京丹後市の未来をデザインする次世代リーダーを育てる」ためのワークショップを行った。



事業の成果・今後の展望等

- ・普段の授業とは異なる観点から郷土への愛着と誇りを育むとともに、国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できるイノベーティブなリーダー人材を育成することができた。
- ・地域課題に目を向け、答えのない問い合わせに取り組む本プログラムは、どんな意見も否定せず、自由な発想や意見を述べることができる。その環境は、子どもたちの豊かな発想を引き出すことを実現することができ、子どもたちが安心して自分の意見を発信する場となった。
- ・今後も郷土への愛着と誇りを育むとともに、国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できるイノベーティブなリーダー人材を育成するために、市単独で実施できる持続可能な手法を検討する。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

いじめ・不登校等防止対策等総合推進事業

事業の経過・背景・課題

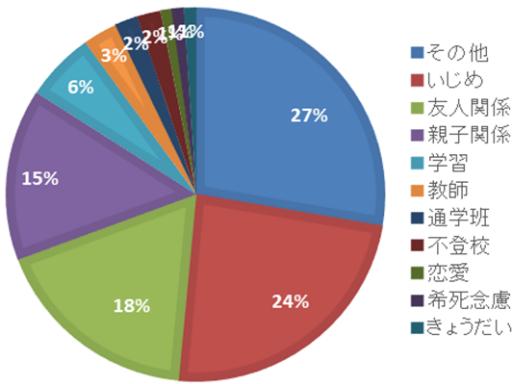
市では令和3年8月よりLINEを用いたSNS相談に取組んできたが、個人所有のスマートフォン等による友達登録を必要とするため、利用者が限られていた。

3年間の取り組みの中で、友達登録数は100名を超えたが、全児童生徒の約3%にとどまっていることから、1人1台タブレットにてすべての児童生徒が使用できる環境を整える必要があると考えた。

取組内容

交付実績額： 331 千円

令和6年度は、教育委員会の職員（臨床心理士と指導主事）が輪番にて児童生徒からの相談に対応した。平日の16時～21時の間にリアルタイムのオンライン相談を実施、導入直後の3か月において、852回と多くの相談が寄せられた。その後1日あたり最大でも10件程度の相談へと落ち着き、年度末まで合計で1,178件の相談件数となつた。相談内容については、「その他」「いじめ」「友人関係」の順番に多い結果となつた。



事業の成果・今後の展望等

- ・いじめをはじめ様々な相談を行った結果、アンケートによる児童生徒からの解決したと思える割合が73%となつた。
- ・クラスのいじめの状況を被害者だけでなく、加害者や傍観者からの相談も受けることで、いじめの構造を把握することが可能となり、いじめの解決へと向かうことができた事例が複数件あった。
- ・登校し難い等の学校不適応にある子どもの悩み相談を受けることで、子ども自身の気持ちの安定が得られた。
- ・非常に多くの相談が寄せられていることから、外部のカウンセリングセンターへと時間外の相談対応を委託することで、スピーディーな返信を行えるようにするとともに、委託業者と教育委員会が連携を取りながら、より効果的な相談窓口としての機能を高めていくことを目指す。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課 (0772-69-0620)